平成22年度 財政状況資料集

総括表 (市町村)

								指定団体等	の指定状況		区分	半成		平成21年度(十円)	区分		平成22年度(十円·%)	平成21年度(十円・%)
都	『道府県名	Ц	Ⅰ形県	市町	T村類型	IV -	- 2			歳入総額			5, 859, 450	5, 296, 949	実質収支比率	-	4. 6	7. 8
				-				財政健全化等 財源超過	×	歳出総額 歳入歳出差	:21		5, 639, 714 219, 736	4, 880, 292 416, 657	経常収支比率 (※1)		86. 3 (95. 2)	90. 1 (97. 6)
7	市町村名	- 1	I辺町	地方交	交付税種地 2-		-3	別 / 別 / 別 / 別 / 別 / 別 / 別 / 別 / 別 / 別 /	×		『対 越すべき財源		45, 722				3, 767, 983	3, 568, 507
		-	14,624)		V 1.7 1,012 - C			近畿	×	実質収支	CO 7 C MINN		174, 014	276, 936	標準財政規模 財政力指数		0.38	0.40
		22年国調(人)	15, 139	1		産業構造		中部	×	単年度収支			-102, 922		公債費負担比率		16. 7	17. 9
	人口	17年国調(人)	15, 415	1				過疎 ×		積立金			250, 544	60, 533	健全化判断比率			
		増減率 (%)	-1.8		区分	17年国調	12年国調	山振	×	繰上償還金	ì		-	-	実質赤字比率		-	-
		23.03.31(人)	15, 297	-	第1次	694	783	低開発	0	積立金取崩	し額		-	-	連結実質赤字比率		-	-
住民	基本台帳人口	22.03.31(人)	15, 396	- 5	お1次	8. 9	9. 9	指数表選定	0	実質単年度	収支		147, 622	37, 609	実質公債費比率		14. 4	14. 7
		増減率 (%)	-0. 6	-	第2次	2, 680	3, 015			基準財政収	(入額		1, 105, 269	1, 161, 725	将来負担比率		50. 7	104. 0
血	面積(kmí)		61.36	,	韦 2次	34. 2	38. 3			基準財政需	要額		3, 104, 286	2, 977, 249	資金不足比率(※3)			
人口習	密度(人/km)		247	-	第3次	4, 374	4, 071			標準税収入	、額等		1, 407, 591	1, 480, 879				
世界	帯数 (世帯)		4, 419	7 '	わり久	55. 9	51.7			経常経費充	当一般財源等		3, 271, 118	3, 221, 662				
				職	員の状況					歳入一般則	源等		4, 510, 075	4, 242, 658				
	区分	定数	1人あたり平均			区分	職員数	給料月額	1人あたり平均	1								
	巨刀	走奴	給料月額(百円)			巨刀	(人)	(百円)	給料月額(百円)	地方債現在	高		6, 246, 325	6, 464, 749				
特	市区町村長	1	6, 560	_	一般職員	Jan 1	112	367, 808	3, 284	うち公的]資金		4, 705, 061	5, 082, 458				
테	副市区町村長	1	5, 715	般	うち泪	肖防職員	-	-	-	债務負担行	「為額(支出予定額)		272, 012	320, 656				
脚北	以入役	-		- 職		支能労務職員	16	51, 664		収益事業収			-	-				
**	教育長	1	5, 382	員	教育公社	务員	1	4, 246	4, 246	土地開発基	金現在高		244, 955	244, 889				
17	義会議長	1	3, 100	等	臨時職員	Đ.	-	_	-	積立金	財政調整基金		761, 945	511, 401				
	義会副議長	1	2, 550		合計		113	372, 054		現在高	減債基金		258, 022	257, 902				
	義会議員	10	2, 400		ラスパイ	イレス指数			99. 6	沙丘田	その他特定目的基金		1, 195, 708	886, 748				
			•		·		•	•				·				•		
	計等の一覧			と会計の	一覧			公営企業(法適			公営企業(法非適)			関係する一部事務		地方公社・第	第三セクター等一覧	
項番		会計名	項	昏		会計名		項番	会計名		項番	会計名		項番	組合等名	項番	団体名	(※2)

(1) 一般会計

(7) 山辺町公共下水道事業特別会計

(8) 山辺町簡易水道等特別会計

(11) 山形県市町村職員退職手当組合

(12) 山形広域環境事務組合

(9) 山形県消防補償等組合

(10) 山形県自治会館管理組合

(13) 山形県市町村交通災害共済組合

(14) 山形県後期高齢者医療広域連合(普通会計分)

(17) 山辺西部湖畔自然休養村管理公社

(18) 山辺町土地開発公社

(15) 山形県後期高齢者医療広域連合(事業会計分)

(16) 最上川中部水道企業団

(2) 山辺町国民健康保険特別会計

(5) 山辺町老人保健特別会計

(3) 山辺町介護保険特別会計(保険事業) (4) 山辺町後期高齢者医療特別会計

(6) 山辺町介護保険特別会計(介護サービス事業)

/ ※1:経常収支比率の()内の数値は、「減収補塡債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。 ※2:地方公共団体が損失補塡等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。 ※3:資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。

(1) 普通会計の状況(市町村)

歳入の					地方税の状況(単位 千円・%)					
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分		収入済額	構成比	超過課	
地方税	1, 199, 034	20. 5	1, 199, 034	34. 9	普通税		1, 175, 329	98. 0		2, 714
地方譲与税	65, 574	1.1	65, 574	1.9	法定普通税		1, 175, 329	98. 0		2, 714
利子割交付金	4, 638	0. 1	4, 638	0. 1	市町村民税		525, 155	43.8		2, 714
配当割交付金	1, 744	0.0	1, 744	0. 1	個人均等割		21, 142	1.8		-
株式等譲渡所得割交付金	526	0.0	526	0.0	所得割		468, 244	39. 1		-
地方消費税交付金	103, 173	1.8	103, 173	3.0	法人均等割		17, 921	1.5		-
ゴルフ場利用税交付金	11, 980	0. 2	11, 980	0.3	法人税割		17, 848	1.5		2, 714
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	固定資産税		568, 928	47. 4		-
自動車取得税交付金	15, 076	0.3	15, 076	0.4	うち純固定資産	税	566, 830	47. 3		-
軽油引取税交付金	-	-	-	-	軽自動車税		31, 063	2. 6		-
地方特例交付金	25, 307	0.4	25, 307	0. 7	市町村たばこ税		50, 183	4. 2		-
児童手当及び子ども手当特例交付金	12, 203	0. 2	12, 203	0.4	鉱産税		-	-		-
減収補塡特例交付金	13, 104	0. 2	13, 104	0.4	特別土地保有税		-	-		-
地方交付税	2, 199, 547	37. 5	1, 999, 017	58. 2	法定外普通税		-	-		-
普通交付税	1, 999, 017	34. 1	1, 999, 017	58. 2	目的税		23, 705	2. 0		-
特別交付税	200, 530	3.4	-	-	法定目的税		23, 705	2. 0		-
(一般財源計)	3, 626, 599	61.9	3, 426, 069	99.7	入湯税		23, 705	2. 0		-
交通安全対策特別交付金	2, 710	0.0	2, 710	0. 1	事業所税		-	-		-
分担金・負担金	-	-	-	-	都市計画税		-	-		-
使用料	59, 488	1.0	2, 751	0. 1	水利地益税等		-	-		-
手数料	40, 703	0.7	-	-	法定外目的税		-	-		-
国庫支出金	807, 103	13.8	-	-	旧法による税		-	-		-
国有提供交付金(特別区財調交付金)	-	-	-	-	合計		1, 199, 034	100.0		2, 714
都道府県支出金	293, 999	5.0	-	-	区分		平成22年度		平成21年	
財産収入	5, 335	0. 1	2, 426	0. 1	徴収率 現 合計		97. 5	92. 2	97. 6	93. 3
寄附金	6, 182	0. 1	-	-	(04) 左 計 印则	「村民税	98. 0	93. 7	97. 7	94. 7
繰入金	24, 991	0.4	-	-	(物) 土 純固]定資産税	96. 6	90.0	97. 1	91. 1
繰越金	416, 657	7. 1	-	-						
諸収入	133, 883	2. 3	878	0.0	公営事業等/			東保険事業	会計の状況	
地方債	441, 800	7. 5	-	-	合計		実質収支			78, 849
うち減収補塡債(特例分)	-	-	-	-	下水道		再差引収支			69, 951
うち臨時財政対策債	357, 000	6. 1	-	-	簡易水道		加入世帯数(世帯))		1, 867
歳入合計	5, 859, 450	100.0	3, 434, 834	100.0	上水道	2, 635	被保険者数(人)	> 1		3, 401

公営事業等へ	への繰出	国民健康保険事業会計の状況				
合計	618, 996	実質収支	78, 849			
下水道	125, 057	再差引収支	69, 951			
簡易水道	4, 386	加入世帯数(世帯)	1, 867			
上水道	2, 635	被保険者数(人)	3, 401			
工業用水道	-	₩/□№★ 「保険税(料)収入額	94			
国民健康保険	98, 364	被保険者 保険税(47)収入額	93			
その他	388, 554	1人当り 【保険給付費	268			

(注釈) 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、 単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

			位 千円・%)			
	目的別歳		(単位 千円・%)			
区分	決算額(A)	構成比	(A) のうち普通建	談事業費	(A)のうち充	
議会費	73, 378	1. 3				73, 378
総務費	1, 129, 896	20.0		235, 869		860, 421
民生費	1, 191, 043	21. 1		3, 609		708, 533
衛生費	331, 462	5. 9		2, 382		273, 566
労働費	44, 940	0.8		-		7, 601
農林水産業費	177, 765	3. 2		16, 738		123, 519
商工費	157, 490	2. 8		· –		77, 490
土木費	438, 425	7.8		122, 916		398, 938
消防費	140, 877	2. 5		24, 814		118, 476
教育費	1, 181, 839	21. 0		346, 541		891, 347
災害復旧費	2, 257	0.0				2. 257
公債費	770, 342	13. 7		_		754, 813
諸支出費	770, 042	10. /		_		704, 010
前年度繰上充用金	_	_		_		_
歳出合計	5, 639, 714	100.0		752, 869		4, 290, 339
MACH LI II	性質別歳		(単位 千円・%)	702, 000		1, 200, 000
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充	当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	2, 331, 081	41.3	1, 896, 423		1, 891, 260	49. 9
人件費	1, 032, 114	18. 3	981, 459		976, 779	25. 8
うち職員給	644, 705	11.4	599, 868		_	-
扶助費	528, 625	9.4	160, 151		159, 668	4. 2
公債費	770, 342	13.7	754, 813		754, 813	19. 9
内 元利償還金	770, 342	13.7	754, 813		754, 813	19. 9
訳 一時借入金利子		-	· –		· –	-
その他の経費	2, 553, 507	45. 3	2, 093, 353		1, 379, 858	36. 4
物件費	730, 999	13. 0	511, 103		498, 534	13. 1
維持補修費	118, 152	2. 1	111, 712		111, 712	2. 9
補助費等	417, 860	7. 4	349, 176		236, 380	6. 2
うち一部事務組合負担金	65, 620	1. 2	65, 620		65, 620	1.7
操出金	616, 361	10. 9	547, 656		533, 232	14. 1
精立金	578, 135	10.3	573, 706		000, 202	14.1
投資・出資金・貸付金	92, 000	1. 6	373, 700		_	_
前年度繰上充用金	32, 000	1.0				
投資的経費計	755, 126	13. 4	300, 563			
うち人件費	19, 524	0.3	19, 524			
普通建設事業費	752, 869	13. 3	298, 306			
内しうち補助	284, 544	5.0	21, 084			
いっち単独	465, 566	8.3	276, 563			
災害復旧事業費	2, 257	0.0	2, 257			
失業対策事業費	E 620 714	100.0	4 200 220			
歳田合計	5, 639, 714	100.0	4, 290, 339			

(2) 各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率(市町村) 平成22年度 山形県山辺町 般会計等の財政状況 (単位:百万円) 方公社・第三セクター等の経営状況及び地方公共団体の財政的支援の状況(単位:百万F 会計名 形式収支 地方債 現在高 经常损益 純資産又は 正味財命 施装団体から 出資金 一般会計等 自用見込額 1, 243 関係する一部事務組合等の財政状況(単位:百万円 総収益 (歳入) 1 山形県消防補偿等組合 1, 122 山形根市町村職員退職手無紹合 山形原後期高齢者医療広域遺合(事業会計分 138, 688 2,864 及分 末村間遺産 (沿橋東京県一株村富年間) 選集 一部原連地方側にある年度新和機能 なり変変素のの大村間道性に対する場とを 質問 を参加が起こした地方形のの大村間遺化に対する発出金年 使用機能が出こした地方形のの大村間遺化に対する発出金年 使用機能が出こるイ文出線(公債費に挙ずるもの) 一時個人金の料子 実質公債費比率 (千円 平成20年度 平成21年度 平成22年度 分母比 平成20年度 平成21年度 平成22年度 770,860 776,507 770,342 平成20年度 平成21年度 平成22年度 6,685,523 6,464,749 6,246,325 可来與原稿 一条会計等に在心的方便の確定。 情報及即行為上高づ了反此方理 少常企業即等地入及結構 指的等數學學及結構 但第二年的世界及結構 提立立人中の資際等與因及結 提立立人中の資際等與因及結構 組修業產業實育子提供歷及結 由的學歷數集實育子提供歷及結 合計 PFI事業に係るもの ドド車に係るもの に対から五省協定等に係るもの 酸工力を直貨業工に係るもの 位 森林松台地次所等が行う事工に係るもの 地力の路角形式が輸化に係るもの 点 性が路角形式が開発に係るもの 力 社内部は私人の開発を設定に係るもの 利を見まれて、 が表現間、使用を記る機能に係るもの 引を対けて、係の配便に係るもの すの他と配じまするもの 1, 233 所等を記じ込みをあった。 内容 (中学年) 平成22年度 11, 445, 520 1, 698, 959 60, 587 10, 846, 199 1, 886, 199 48, 814 9, 973, 159 2, 514, 439 37, 612 5, 757, 163 8, 309, 214 その他上記に準ずるもの 山辺町公共下水道事業特別会計 山辺町簡易水道等特別会計 充当可能特定歳入 基準財政需要額算入見込額 合計 5, 701, 435 7, 460, 981 企業債等 組入見込額 その他の会計 地方道路公社に係る将来負担額 23, 692 16, 492 1, 967 3, 405, 664 456, 519 2, 949, 145 1, 626 3, 568, 507 494, 454 3, 074, 053 土地開発公社に係る将来負担額 その他第三セクター等に係る将来負担額 入公債費等の額 実質公債費比率 ((ア) - (ウ)) / ((イ) - (ウ)) × 1 0 0 健全化判断比率 平成22年度(再規) 早期健全化基準 財政再生基準 質赤字比率 結実質赤字比率

実質公債費比率 将来負担比率

(3)市町村財政比較分析表(普通会計決算)

平成22年度

山形県山辺町

99.4

山形県平均



● 当該団体値
● 類似団体内平均値
▼ 類似団体内の
最大値及び最小値

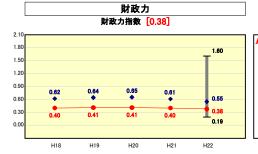
※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

※平成23年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。

※類似団体内平均値は、充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体を含めた加重平均であるため、最小値を下回ることがある。

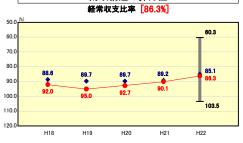
※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。



類似団体内質位 全国平均 山形観平均 46/63 0.53 0.35

対政力指数の分析欄

当町には基幹となる産業や大きな企業がないことから財政基盤が弱く、類似団体平均値0.55を0.17ポイント下回って0.38となっている。行財政な革の取利のは継続しているので、引き続き歳出削減に努めるとともに、ここ数年低下してきている税の徴収率の向上対策(3年間で3%の向上を目標)を強化していく。また、県都に近いという地域的な利点を活かした区画整理事業による分譲地完売を推進しながら、税収の増額確保に努め財政基盤の強化を図っていく。



財政構造の弾力性

類似団体内閣位 全国平均 山形県平均 34/63 89.2 87.1

経常収支比率の分析機

類似用体内層份

214,085

H22

平成18年度からの行財政改革の取組みによる職員数の削減(10名減)、 三役・職員給の削減、議員報酬の削減、議員定数の減(2名減)等のほか、 全ての事務事業の見直しにより義務的経費の削減に努めた結果、平成19 年度と比較して8.7ポイント低下した。今後も、行財政改革の取組みを通して、事務事業の見直しを更に進めるとともに、町税の収納率向上対策(年間 1%、3年間で3%の向上)の強化により類似団体平均値以下に低下させる ことを目標とする。



H20

H21

180,000

210,000

240.00

25/63 114.985 125.975

全国平均

人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄

類似団体と比較して、人件費・物件費等の人口1人当たりの額が低くなっているのは、ゴミ処理業務は一部事務組合で行っていること、また、消防業務を委託していることなどによる。この負担金及び委託料相当分を、人件費物件費等に合算した場合、人口1人当たりの金額が増加することになるので、今後これらを含めた経費について抑制を図っていく必要がある。

山形椰平均



籍似团体内器位 全国平均 28/63 79.7

将来負担比率の分析機

将来負担比率については、地方債残高の減や職員数の減による退職手当 負担見込額の減少、また、公共下水道事業に係る地方債の繰土債還による 地方債疾高の減、更に財政調整基金や中学校整備基金の積立による充当 可能基金の増額等により類似団体平均値と比較して19.3ポイント下回って いる。しかし、今後中学校改築等の大規模事業の実施による借入により比 率が上昇するものと見込まれる。



類似団体内質位 全国平均 山形裸平均 41/63 10.5 14.3

官質公債費比率の分析欄

実質公債費比率は14.4%で類似団体平均値12.7%を1.7ポイント上回っている。これは平成15年度・平成16年度に大きな借入があったためで、年々減少傾向にあるが、今後中学校改築等の大規模事業の実施による借入により比率が上昇するものと考えられる。



H20

H21

H22

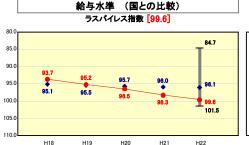
H18

H19

類似団体内層位 全国平均 山形県平均 22/63 7.24 8.08

人口千人当たり職員数の分析機

現在7.39人で類似団体平均値8.63人を1.24人下回っている。これは、行財政改革の取組みにより職員数を削減したこと。また、事務事業等の 見直しにより、適正な人員管理を実施してきたことによるもので、今後も適正 な職員の配置に努める。



基似团体内层位 全国市平均 全国町村平均 56/83 98.8 95.3

ラスパイレス指数の分析欄

平成18年度から平成22年度を目標とした行財政改革の取組みにより、職員給与の独自削減(平成18年1月~4.7%削減、平成19年1月~2%削減、平成22年1月~1%削減)を行っているが、削減率の減少任半て類似団体平均値96.1%を3.5ポイント上回っている。今後数年間の大量退職によって数値は減少する見込みであるが、更に給与の適正化を図り人件費の抑制に努めていく。

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成22年度

6.0

11.8

24.0

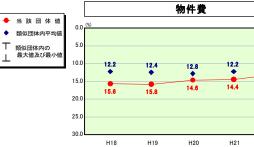
H22

山形県山辺町

経常収支比率の分析



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。



着似闭体内槽份 40/63

全国平均 12.8

山形県平均 10.7

山彩厚平均

山形鳳平均

山形鳳平均

67.8

15.9

10.7

物件費の分析欄

電算化に伴う業務委託や機器類のリース料によって13.1と類似 団体平均値11.8よりも1.3ポイント高くなっているが、行財政改革 の取組みにより平均値に近づいている。今後も経費節減を図りなが ら類似団体平均値地を上回らないよう削減に努める。



箱似用体内槽份 47/63

全国平均 25.1

山形厚平均 24.2

山形犀平均

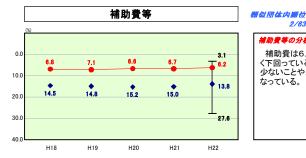
山形鳳平均

193

6.3

人件費の分析欄

職員給与の削減により人件費を抑制しているが25.8で、類似団 体平均値24.5より1.3ポイント高く、経常収支比率に占める割合 が高くなっている。今後も行財政改革の取組みにより、指定管理者 制度や民間委託等により類似団体平均数値を上回らないよう人件 費の抑制に努める。



2/63

なっている。

補助費等の分析欄 補助費は6.2で類似団体平均値の13.8より7.6ポイントと大き く下回っている。これは一部事務組合への負担金が類似団体より 少ないことや、消防費を非常備で対応していることが大きな要因と

全国平均

10.1



扶助費の分析欄

18/63

財政状況が厳しいため、類似団体平均値5. 1より0. 9ポイント低 くなっているが、これは町直営の施設がないことによるものではな いかと考えられる。

全国平均

10.4



その他の分析欄

57/63

類似团体内帽位

その他に係る経常収支比率が17.1で類似団体平均値の12.5 より4.6ポイント上回っているのは、特別会計への経常的な繰出金 が主な要因であるが、今後は特別会計の経営の適正化と健全化を 図り、普通会計負担額の軽減に努めていく。

全周亚州

11.8



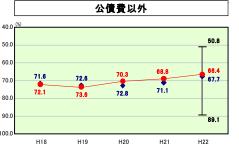
粗似闭体内帽位 公債費の分析欄

49/63

公債費は19.9で類似団体平均値の17.4より2.5ポイント高く なっている。これは過年度において大規模事業を行ってきたため元 利償還金が増となったものだが、現在は地方債の新規発行を伴う 事業の抑制に努めており徐々に減少する見込であるが、今後予定 されている中学校改築事業等の実施によって財政運営も非常に厳 しくなるものと想定される。

全国平均

19.0



23/63 公債費以外の分析機

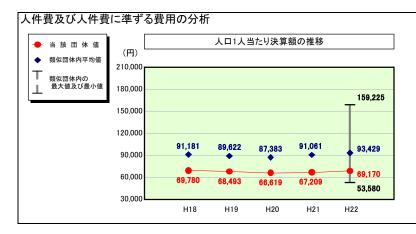
相似闭体内相位

公債費以外の数値は66.4で類似団体平均値の67.7より1.3 ポイント低くなっている。行財政改革の取組みを開始した平成18年 度は類似団体平均値より0.5ポイント、平成19年度は1.0ポイン ト高い状況であったが、その後3ヶ年は類似団体平均値を下回って きており、今後もこの取り組みを更に継続していく。

全国平均

70 2

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)



| 人口1人当たり決算額 | 当該団体 (円) | 類似団体平均 (円) | 対比 (%) | 67,472 | 78 111 人件費及び人件費に準ずる費用 当該団体決算額 (千円) 人件費 1, 032, 114 賃金 (物件費) 46 948 3 069 6 679 **▲** 54 1 一部事務組合負担金 (補助費等) 6.568 429 12. 454 **▲** 96.6 公営企業 (法適) 等に対する繰出し (補助費等) 公営企業 (法適) 等に対する繰出し (投資及び出資金・貸付金) 662 公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金) 事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費) 56, 558 3.697 3, 529 4. 8 19, 524 **1**03, 624 1, 276 **A** 6, 774 1, 404 **A** 9, 410 **▲** 9. 1 ▲退職金 合計 **▲** 28.0 1, 058, 088 69, 170 93, 429 **▲** 26.0

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	7. 39	8. 50	▲ 1.11
ラスパイレス指数	99. 6	96. 1	3. 5

公債費及び公債費に準ずる費用の分析 人口1人当たり決算額の推移 当該団体値 (円) 類似団体内平均値 100,000 類似団体内の 79,922 最大値及び最小値 80,000 60,000 40,000 28,632 28,859 27,176 27.934 20,000 29,303 27,557 28,658 26,650 2,240 H18 H19 H20 H21 H22

公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)				
	当該団体決算額		人口1人当たり決算	額
	(千円)	当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	770, 342	50, 359	51, 965	▲ 3.1
積立不足額を考慮して算定した額	=	=	=	=
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	3	_
公営企業債の償還の財源に充てたと認められる繰入金	124, 591	8, 145	13, 833	▲ 41. 1
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる補助金又は負担金に充当する一般財源等額	1, 233	81	5, 230	▲ 98.5
情務負担行為に基づく支出のうち公債費に準ずるものに充当する 一般財源等額	17, 932	1, 172	1, 403	▲ 16.5
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	19	-
▲特定財源の額	▲ 15, 529	▲ 1,015	▲ 3, 431	▲ 70.4
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 489, 533	▲ 32, 002	▲ 41,088	▲ 22.1
合計	409, 036	26, 740	27, 934	▲ 4.3
※平成23年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基	づく宝質公信費と	率を質出していた	い団体については	グラフを表記し

(参考) 普通建設事業費の (円)	分析	人口1丿	、当たり決算額	頭の推移	
80,000 70,000 60,000 40,000 30,000 20,000 10,000	•	•	•	•	•
0 -	H18	H19	H20	H21	H22
	——— 当該	核団体値	•	類似団体内	平均値

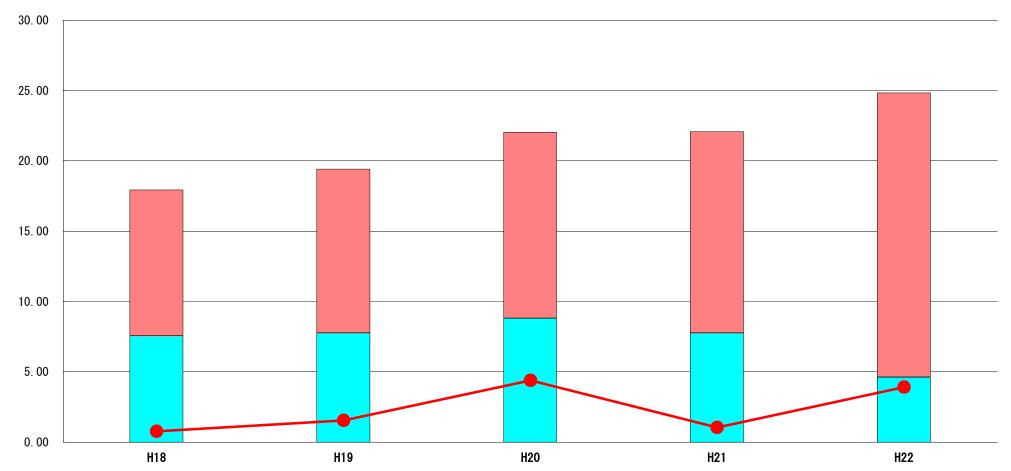
普通建設事業費							
		当該団体決算額		人	口1人当たり決算	額	
		(千円)	当該団体(円)	増減率(%)(A)	類似団体平均(円)	増減率(%)(B)	(A) – (B)
H18		342, 353	22, 047	▲ 52.8	57, 400	14. 6	▲ 67. 4
	うち単独分	315, 703	20, 331	▲ 46.5	34, 972	8. 2	▲ 54. 7
H19		376, 158	24, 187	9. 7	50, 788	▲ 11.5	21. 2
	うち単独分	254, 289	16, 351	▲ 19.6	26, 521	▲ 24. 2	4. 6
H20		252, 290	16, 296	▲ 32.6	45, 820	▲ 9.8	▲ 22.8
	うち単独分	190, 080	12, 277	▲ 24.9	22, 743	▲ 14. 2	▲ 10. 7
H21		460, 814	29, 931	83. 7	65, 529	43. 0	40. 7 90. 3
	うち単独分	443, 857	28, 829	134. 8	32, 858	44. 5	
H22		752, 869	49, 217	64. 4	64, 717	▲ 1.2	65. 6
	うち単独分	465, 566	30, 435	5. 6	31, 931	▲ 2.8	8. 4
過去5年間平均		436, 897	28, 336	14. 5	56, 851	7. 0	7. 5
	うち単独分	333, 899	21, 645	9. 9	29, 805	2. 3	7. 6

(5) 実質収支比率等に係る経年分析(市町村)

平成22年度

山形県山辺町

標準財政規模比(%)



標準財政規模比(%)

区分	H18	H19	H20	H21	H22
財政調整基金残高	10. 37	11. 64	13. 24	14. 33	20. 22
実質収支額	7. 56	7. 77	8. 80	7. 76	4. 62
—— 実質単年度収支	0. 77	1. 55	4. 40	1. 05	3. 92

分析欄

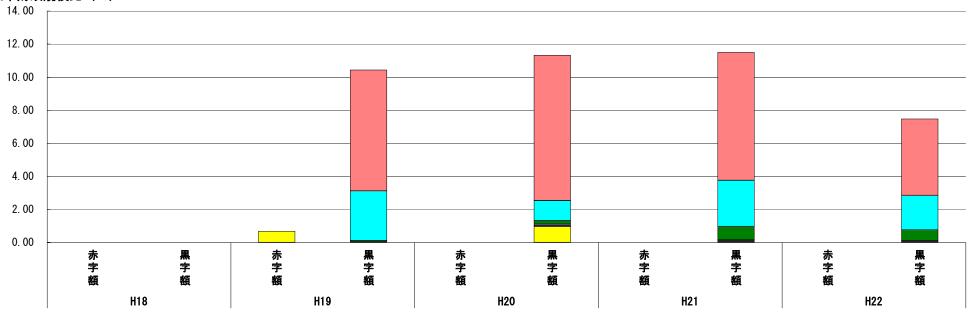
財政調整基金残高の増については、今後予定されている山辺 中学校改築事業、山形広域環境事務組合によるごみ処理場建設 事業等の大規模事業における一時負担を軽減するため計画的に 基金積立を実施してきたことによる。実質収支については、平成16年度から平成21年度までは大規模な事業がなく2億円 台で推移してきたが、平成21年度末から各種交付金事業・社 会資本整備交付金事業等の取組みにより、事業量・事業費が増 加して減となった。

(6) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析(市町村)

平成22年度

山形県山辺町

標準財政規模比(%)



標準財政規模比(%)

年度 会計	H18	H19	H20	H21	H22
一般会計	-	7. 32	8. 80	7. 76	4. 62
山辺町国民健康保険特別会計	-	3. 00	1. 21	2. 78	2. 09
山辺町介護保険特別会計(保険事業)	-	0. 07	0. 22	0. 81	0. 64
山辺町後期高齢者医療特別会計	-	-	0. 07	0. 07	0. 07
山辺町簡易水道等特別会計	-	0. 04	0.06	0. 04	0. 05
山辺町老人保健特別会計	-	▲ 0.67	0. 97	0. 05	-
山辺町介護保険特別会計(介護サービス事業)	-	-	-	-	-
山辺町公共下水道事業特別会計	-	-	-	-	-

分析欄

一般会計については、平成21年度(繰越明許事業)や平成22年度各種交付金事業等の取組みにより事業量・事業費が大きく増となったため、形式収支・実質収支は減となっている。その他特別会計については、特に目立った増減は見られないものの、一般会計からの繰入金が年々増加傾向にあるので、各会計の独立採算制の原則に立ち保険料や使用料金等の見直しにより料金体制の適正化を図って、一般会計の負担軽減に努めなければならない。

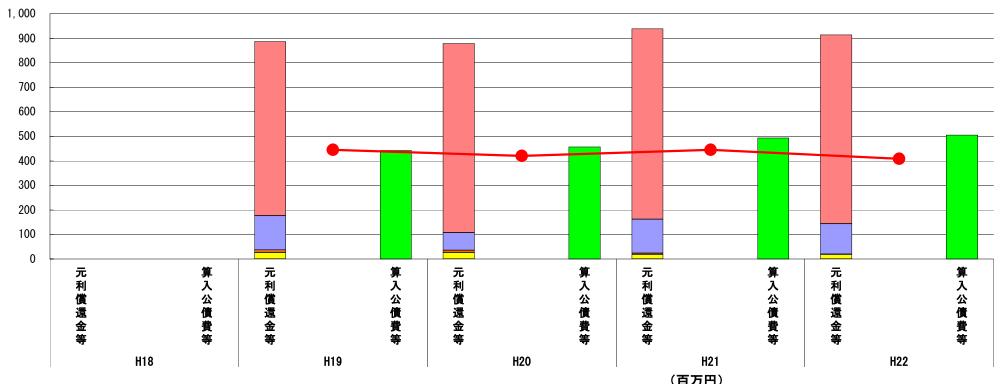
※平成23年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(7) 実質公債費比率 (分子) の構造 (市町村)

平成22年度

山形県山辺町

(百万円)



						(11/2) 1/
分子の構造	年度	H18	H19	H20	H21	H22
	元利償還金	-	711	771	777	770
	積立不足額考慮算定額	-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額	-	-	-	-	-
元利償還金等(A)	公営企業債の元利償還金に対する繰入金	-	140	72	138	125
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	-	10	9	6	1
	債務負担行為に基づく支出額	-	26	26	18	18
	一時借入金利子	-	-	_	-	_
算入公債費等(B)	算入公債費等	_	442	457	494	505
(A) — (B)	━━ 実質公債費比率の分子	_	445	421	445	409

分析欄

元利償還金について、一般会計における地方債の元利 償還金については、新規の地方債借入れを抑制している ことにより平成21年度をピークに緩やかに減少してい く見込みである。また、公営企業債の元利償還金に対す る繰入金については、公共下水道事業特別会計にかかる ものだが、建設事業がほぼ完了したこと、地方債の元利 償還金に対する使用料の充当割合が高くなってきている ことなどにより減少している。

算入公債費等については、全体的に災害復旧事業等の算入割合が高くなったことにより微増となっている。 以上のことから、元利償還金は減少し、算入公債費等が 増となったことから、実質公債費比率も減となってきて いる。

※平成17年度と平成18年度において、元利償還金とは充当可能特定財源の額を控除した後の額であり、満期一括償還地方債に係る年度割相当額とは積立不足額考慮算定額を含んだ額である。

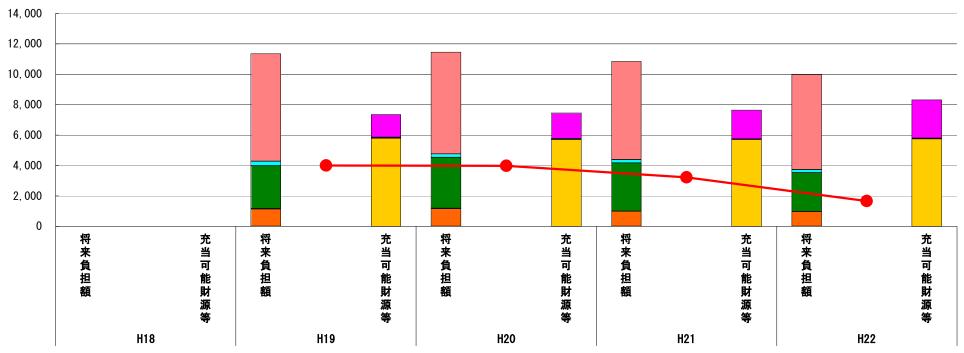
※平成23年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(8) 将来負担比率 (分子) の構造 (市町村)

平成22年度

山形県山辺町

(百万円)



						(ロルロ)
分子の構造	年度	H18	H19	H20	H21	H22
	一般会計等に係る地方債の現在高	-	7, 076	6, 686	6, 465	6, 246
	債務負担行為に基づく支出予定額	-	297	239	209	191
	公営企業債等繰入見込額	-	2, 808	3, 342	3, 183	2, 569
将来負担額(A)	組合等負担等見込額	-	36	17	5	3
付木貝担領(A)	退職手当負担見込額	-	1, 131	1, 162	985	964
	設立法人等の負債額等負担見込額	-	-	_	-	_
	連結実質赤字額	-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額	-	-	-	-	-
	充当可能基金	-	1, 492	1, 699	1, 886	2, 514
充当可能財源等(B)	充当可能特定歳入	-	73	61	49	38
	基準財政需要額算入見込額	-	5, 779	5, 701	5, 697	5, 757
(A) - (B)	将来負担比率の分子	-	4, 004	3, 985	3, 214	1, 664

※平成23年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

分析欄

(百万円)

将来負担額について、地方債の現在高については、新規 の地方債借入を抑制していることにより、平成19年度に 対して平成22年度が830百万円の減となっている。

公営企業債繰入見込額の減は、公共下水道事業特別会計における地方債の元利償還金に対する使用料の充当割合が高くなってきていることによる。退職手当負担見込額の減は、行財政改革の取組みによる新規職負採用の抑制等よって職員数が減少していることによる。

充当可能財源等について、充当可能基金の増は、今後予定されている山辺中学校改築事業、山形広域環境事務組合によるごみ処理場建設事業等の大規模事業における一時負担を軽減するため計画的に基金積立を実施してきたことによる。

以上のことから、将来負担額は前年度と比較して874 百万円減となり、充当可能財源等は677千円増となった ことから、将来負担率は著しく減少した。